

11月6、7日の土日で、(株)七福醸造さんが主催する「三河湾チャリティー100km歩け歩け大会」に参加してきました。

30時間掛けて衣浦から渥美半島の先端までの100kmを歩くというとても無謀(?)試みで、月曜日は松葉杖をつく事を覚悟して臨みました。

今回の私のテーマは「肉体と精神の限界の先に見える世界とは?」でしたが、折りしも豪雨と雷のとどろく中での100kmとなり「試練、まさに望むところ」という感じでした。……というのは全くのウソで、最初はいつものことで、

「なんで今日に限って雨なんだよぉ〜」とブツブツ。持っていた地図が雨にぬれてボロボロになって、

「これじゃ迷子だよぉ〜」とブツブツ。豪雨でできた水たまりの中に足を突っ込んでクツがグチョグチョになって、

「もうだめだー。こんなじゃ歩けん!!」とひとり絶叫。カッパのポケットの中にたまった雨水で携帯電話が故障して、

「やっとなるかぁー!!」と激怒。落雷であたり一面が真っ暗闇になってしまって、

「こ、この企画マジっすかぁ〜?」と目が点。とにかく次から次へと試練が襲ってくるのです。

しかし、意識の表面で軽口をたたいている自分とは裏腹に、意識の深いところから何か熱いものがフツフツと、それも歩けば歩くほどに湧き上がってきていることも自覚していました。「この熱いものはいったい何だろう?」と歩きながらずっと考えていたのですが、ある瞬間ふと、これは『テア魂』なのではないかという思いがしたのです。

4K現場の苛酷な環境。作業中、次から次へと生じるアクシデント。管理者のリスク回避の為だけなのでは?と思えてくる書類の山。それらをかき分けかき分けして目の作業を粘り強く、ひとつひとつこなしていくしか作業を完了させる手段はないということが体に染み付いている忍耐強さ。そしてそれを面白おかしく明るく笑い合いながらこなしていこうとする知恵。これが『テア魂』であり、今回自分がみんなを代表して一人でこの100kmウォークに出場している以上、この『テア魂』の名を汚せないという強い気持ちを持っていたが為に最後まで完歩出来たのではないかと思うのです。

「ちょっとすみません、社長!」「僕のこと忘れていませんかぁ〜?」と突然背後から聞きなれた声があったような気が...

「完全に忘れていました。今、思い出しました。」実は今回も日間賀島の時と同様、あの最後のキーマスター、チェッカーズ系のモンチッチ、

「社長、やっぱこれからは武士道ですよえ?!!」と言いながら、小牧のお菓子の城でナンバばかりしている名古屋大学大学院留年予定(?)の宮脇君にサポート役を頼んでおいたのです。

「社長!僕は100kmウォークで何の役目をすればいいのですか?」と彼はあどけない瞳で聞いてきました。

「きび団子自分持ちの犬をしてくれ!」とだけ言いました。また空気が一瞬止まりましたが、それで彼は全てを悟りました。彼は内面にはとても大切にしているプライドを持っているので、本当は

「100kmウォークに全国からたくさんの方たちが挑戦に来られるので、その方々の足の疲れを取って差し上げられるような献身的なマッサージを君の持ち前の明るさでハンドパワーしてくれ!!」とでも言うべきところだったかもしれませんが、私は彼と彼の能力を本当に信頼していて、彼も私を信頼してくれているからこそ言える一言だったと思います。(一部7月号より引用)

そしてなんと宮脇君は今回60km付近、雨の降りしきる牛井の吉野家さんの前で私に6通の手紙をずぶぬれになりながら渡してくれました。内容はとても名大大学院生とは思えぬ稚拙(笑)なものでしたが、それゆえに一生懸命企画していた様子が文章から伝わってきて熱いエネルギーとなって私の足を加速させてくれました。また今回「こんな体を壊すような挑戦には絶対協力しない!!」と言っていた妻も途中、子供たちを連れて応援に来てくれ夫、父親としてのパワーも大きく引き出されターボとなって加速しました。

そして西三河掃除に学ぶ会の会長で、スギ製菓の杉浦社長のつくられたカニ汁のあたたかさ、日本を美しくする会の竹中電機、竹中会長の熱い応援、豊安工業の方々の激励、美しいボランティアの女性陣の足マッサージ、中継地点での多くの方々の拍手喝采にささえられ、終わってみるとなんと、312人中16位での感動のゴールとなりました。

多くの方々の声援、励ましがこれ程自分の力になるとは思ってもみませんでした。そしてテアのみなさん、留守中安全作業にご協力いただきありがとうございます。歩いている間、苦しくなるとみんなの苦勞して作業している姿を思い浮かべ、ファイティングスピリットに火をつけました。

今回私が記録した22時間15分を「炎のテア魂タイム」に勝手に認定させていただきます。

来年ぜひ誰かにこの記録を破ってもらいたいと思っています。参加希望者には来年用の参加切符を切らせていただきます。

『地獄経由、天国行き』の切符です。